

インタラク션을をどのように分析するのか：

エスノメソドロジの視点から

2012年4月20日（金） 18:30-20:30

エスノメソドロジとは社会学の比較的新しい潮流のひとつです。エスノメソドロジにもいろいろありますが、なかでも人々のインタラク션을を分析する際のひとつの有力な視角として、近年様々な領域でエスノメソドロジ研究が取り込まれるようになってきました。今回は、(1) どのようにリサーチプランを組むのか、(2) どのように分析するのか、そして(3) エスノメソドロジ研究を行うとなにがわかってうれいいのか、ということについてかんたんにご紹介したいと思います。みなさんからお話を伺い、こうした研究のニーズについても考えていきたいと思っています。(ゲストより)

ゲスト 秋谷 直矩 氏

京都大学 物質-細胞統合システム拠点 (iCeMS=アイセムス)

科学コミュニケーショングループ 特定研究員

埼玉大学大学院理工学研究科博士後期課程修了後、いろいろな大学の非常勤講師（社会学）を経て現職。専門はエスノメソドロジ、会話分析。

会場 京都大学 物質-細胞統合システム拠点 コンプレックス1 本館 2階セミナー室

*京都市バス「京大正門前」下車すぐ。

*「東山東一条」交差点 北西角。

定員 30名程度

*できるだけ、18時から18時半の間にお越し下さい。

*17時以降は建物の鍵が閉まるので、外からは入れません。

*18時半より遅くなることが予想される方は、事前にご連絡下さい。

持ち物 (おなががすく時間なので)

夕ご飯をご持参ください。

主催 科学コミュニケーション研究会 関西支部有志

水町 衣里 (京都大学)、加納 圭 (滋賀大学)



お申し込みはコチラから → <http://bit.ly/HnCRQ4>